

<令和7年8月6日長久手市指定管理者選定委員会 質疑要旨>

I 社会福祉法人長久手市社会福祉協議会

【申請者への質疑】

◆従業員の配置に関する質疑

Q. 人材確保が重要と思うが、どのように確保しよう考えているか。

A. 地域のつながりを生かしたい。現在の従事者も、希望があれば採用したい。

◆現状の課題分析についての質疑

Q. 現在の支援体制の不足及び今後整備すべき課題をどう捉えているか。

A. 支援の情報を早く入手できる市民は、早期に支援に結び付くが、そうでない市民もいる。大人の情報収集能力の影響を子どもが受けることは、避けるべきである。

Q. 相談機能に強みを感じていて、積極的な働きかけをしていきたいとのことだが、働きかけ方のイメージはどのようなか。

A. 名古屋市では親子で通う子育てサークルがあり、子育ての経験を養う仕組みがある。本市にも子育てサークルはあるが、体系的にできているわけではない。俯瞰的に情報を収集して支援につなげることができると考える。

Q. 自分たちはこうできるという PR はあるか。

A. 中核機能を担うことは、行政機関や事業所と連携が必要なので一般的には難しいが、社協はそれを得意とする。

◆申請動機についての質疑

Q. 現状の通所者への影響を考慮するなら現行業者が引き続き担った方がよいという考えもあるが、なぜ手を挙げたのか。

A. 途切れない支援を行うことが必要と考えたためである。

◆収支計画についての質疑

Q. 純資産を見ると前期が赤字決算だが、事業展開できるか。

A. 主な要因は、事業を安定的に行うために人件費を減らしていないからである。実際は10年間の推移では安定的に運営できていると感じている。キャッシュフローとしては問題ないと判断している。

◆利用者の想定数についての質疑

Q. 午前と午後の部はそれぞれ何人の定員を考えているか。

A. 現状のお子さんへの影響を考慮し、日中は現行と大きく変更しないつもり。毎日日中20人、夕方10人を考えている

【担当課への質疑】

◆市と申請者との関係性についての質疑

Q. 日進市の場合は、社協が担っている。社協の強みは何か。

A. 地域で相談支援を行っていることもあり相談機能が強みであると考えている。

Ⅱ 申請者A

【申請者への質疑】

◆従業員の配置に関する質疑

Q. 人の配置について、申請書の中で非常勤職員の休憩が0分となっている意味は。

A. 一日6時間未満の職員は、休憩時間なしで算定している。なお、給食の時間は休憩の扱いとしていない。

Q. 給食を食べるときは休憩がないそうだが、そのような条件で募集するのか。

A. 募集の際は、〇時間働いてほしいという募集をしており、休憩時間の記載はしない。ちなみに、6時間未満でも休憩をとることはできるようにしており、採用面接の際に個々に確認する。

◆申請書の記載事項の確認

Q. 申請書の中で、クラス数が4であったり5であったり、統一性がない部分がある。

A. 正式には5クラス。肢体不自由の子のクラスをカウントしている部分とカウントしない部分があるからである。

◆研修計画に関する質疑

Q. トップの理念を保育士に伝えるためには研修が必要だと思うが、どのように行うか。

A. 一緒に現場に入り、一緒に行く。教育的療育では子供たちが発達しようとしているものを支援する。

◆利用者の想定数についての質疑

Q. 募集を増やしていく考えはあるか。

A. できれば、30人定員まで増やしていきたい。

◆地域との連携についての質疑

Q. 地域の人と連携していく考えはあるか。

A. ぜひやっていきたい。ボランティアやNPO等を紹介してほしい。

【担当課への質疑】

Q. 施設職員は試食しないのか。味付けの調整はしないのか。

A. 配膳される際に管理者が事前に試食し、とろみや味付け等の調整はできる。

Ⅲ 申請者B

【申請者への質疑】

◆従業員の配置に関する質疑

Q. 賞与はあるか。

A. 業績による。

Q. 人材募集の計画はどのようなか。

A. 地域の人材を採用するが、立ち上げ時には他の管理施設から経験者を採用したい。

Q. 人材育成の方針について、この業務は従業員にかかる負荷が大きいと思うが、どのようなケアを行っているか。

A. 本社に相談窓口等を設けてストレスケアを行っている。人員数の適正化は難しいところであるが、適切なバランスを見極めている。

◆利用者サービス向上への取組についての質疑

Q. 利用者サービス向上への取り組みについて、利用者アンケートは申請書に記載の数だけしか行わないのか。

A. 申請書に記載の数だけでなく、必要に応じ行っていく。

◆他施設の展開についての質疑

Q. 中部地方に施設はあるか。

A. ない。

◆申請動機についての質疑

Q. 申請に至った経緯は。

A. 挑戦し、事業を拡大するためである。

◆収支計画についての質疑

Q. 支出額の提示額は、どのように検討して至ったのか。

A. 指定管理料ありきで金額を設定していない。

◆資産についての質疑

Q. 預金残高について、多くの事業所を抱えるにしては少なく見えるが、大丈夫か。

A. 職員への可能な限りの還元を心掛けており、人件費を削りたくないためである。

◆新規事業についての質疑

Q. 放課後等デイサービスの需要はどう分析したのか。

A. こぐまっこの卒業者と支援の必要な子どもと現在の放課後等デイサービスの数を算定したところ、放課後デイの受け皿が足りないと考えた。

【担当課への質疑】

Q. 放課後等デイサービスのニーズについて、受け皿が足りなくて困っているか、充足しているか。

A. 長久手市第3期障がい児福祉計画における確保方策にもあるとおり、放課後等デイサービスの利用ニーズは年々増加しているが、市内及び近隣の事業所によりサービスの提供ができていると考えている。